

# ミステリ読書案内

2024. 12. 24 発行元

第624号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 青柳碧人「赤ずきんアラビアンナイトで死体と出会う。」

10月に双葉社から青柳碧人の『赤ずきん、アラビアンナイトで死体と出会う。』が出た。『赤ずきん＝童話×ミステリ』としては第三弾となる。今回はどんな趣向で読者を楽しませてくれるのかと期待が膨らむ。

### 今回はアラビアンナイトが舞台

双葉社の雑誌『小説推理』に連載された四編を集めた単行本になっている。今回のテーマはアラビアンナイト。千夜一夜物語。

赤ずきんが家でコーヒーを楽しんでいると、そこに「指輪の魔人」が登場。指輪の魔人のご主人様であるナップという人物が殺人容疑でアラビアの首都ジュビダットで牢屋に入れられているという。嫌疑を晴らすために謎を解く赤ずきんを連れて帰れという命令を受けたそう。赤ずきんは魔人の背中に乗って一路アラビアへ…。

「魔法の世界」の特殊設定の中で「本格謎解きミステリ」というのが本書の見どころ。

### 最初はアラジンとの対決

最初はアラジンの話。「指輪の魔人」よりはるかに強い能力を持つ「ランプの魔人」が出てきて赤ずきんを翻弄する。壺の中に隠れていた

金融大臣のバイサムが黒ヤギの乳の中でおぼれ死んでいたという事件。この第一話の最後の方には凶解が出てきて奇想天外な解決を示してくれる。普通なら「そんなのありえないでしょう」というもの。

アラビアンナイトに登場する各種のキャラクターを物語の展開にどう取り込んでいくのかが作者の腕にかかっている。

その赤ずきんの活躍の話をも毎夜ペルシャの君主シャハリアルに話して聞かせるシェヘラザードの様子が物語全体の大枠の設定になっている。これも面白いところ。

### 第二話は「アリババ」…

第二話はアリババ。空飛ぶ絨毯に乗せられた赤ずきんはアリババの元へ…。そして「開け、ゴマ」だ。洞窟の中での密室殺人の仕掛けを解き明かす流れに。

第三話はシンドバッドが登場。人が、物が大きくなったり、小さくなったりの魔術が大きく関わって

### 青柳碧人「昔ばなしミステリ」

1. むかしむかしあるところに、死体がありました。
2. 赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。
3. むかしむかしあるところに、やっぱり死体がありました。
4. 赤ずきん、ピノキオ拾って死体と出会う。
5. むかしむかしあるところに、死体があってもめでたしめでたし。
6. 赤ずきん、アラビアンナイトで死体と出会う。

る。大臣の甥の三つ子が不審な死を遂げた事件に挑む。そして最終話に繋がっていく…。

### シンドバットとともに…

千夜一夜物語の流れで、シェヘラザードの話は「続く…」の形で次の日の夜を待たなければならないので、新たな展開をちょっと出して期待をさせて、引き継いでいく。赤ずきんはシンドバットとともにジュビダットにもどり、最後に控えている謎に挑む。そして「めでたしめでたし」を迎えることに。

本作、アラビアンナイトの話を上手くストーリーに生かしている。トリックの方の切れ味がやや落ちてきたような気もするが…。

## 南原詠「シルバースレットメディカルドクター・黒崎恭司と弁理士・大鳳未来」

10月に宝

島社文庫から出た本。『このミステリーがすごい！』大賞を受賞した『特許やぶりの女王 弁理士・大鳳未来』、そして第二作『ストロベリー戦争 弁理士・大鳳未来』に続く第三弾として書かれた本。「弁理士」という職業がよく理解できていない私には「すごい世界があるのだなあ…」と思うことの連続。今の世の中、「特許」絡みで表に出てこないいろんな騒動が起こっているのだろうとは想像するものの、仕事の成功・失敗に直結する厳しい競争が起きていることを実感させられる。時間との戦いもまた凄まじいものがある。

今回は難病の特効薬開発にかかわる出来事。創薬ベンチャー企業のフラーリン。その社長の國広一心は、我が子が難病のF J A P (家族性若年型アミロイドーシス)にかかり、この特効薬プロリユードを試したところ劇的な回復を見ることができた。もう少し頑張れば退院も可能な段階まで来ているのに、大手製薬会社3社が特許侵害を訴え、製造中止を求めてきた。フラーリンは薬の研究開発をしているものの大量生産の工場を持っていないので、篠原製薬に生産を委託することになっていた。その製造工程に関わる技術が特許に触れるという主張らしい。社長の國広は弁理士の大鳳未来に助けを求め、篠原製薬との会議に臨む…。とてもクリアできそうにもない難しい壁のようにも見えるのだが…。大鳳未来は思いもしないような角度から小さな隙間を見出し、活路を求めて勝負に出る。メディカルドクターの黒崎恭司が協力してくれる。よくできた話だ。